蜷川幸雄 × 藤原竜也

伝説のパートナーを誕生させた
『身毒丸』が、10年目に復活。

これは単なるアンコール上演ではない。
これからもっと巨大化しようとする、2人の宣戦布告だ。

文＝木俣 冬（フリーライター）

1997年10月15日。蜷川幸雄の62歳の誕生日。ロンドン・バービカン劇場は、沸いた。日本から来た15歳の少年の演技が、英国演劇の牙城を喝采の嵐で大きく揺らしたのだ。その少年こそ、藤原竜也。人生初の演技体験だったが、母と息子の道ならぬ恋というシチュエーションに、ただひたすらに全身全霊で動きまわり、台詞を叫ぶ、その剥き出しの、まさに拳ひとつの攻撃が、ちまちました禁断の恋には留まらず、人類の大きな物語へと昇華させた。原作者・寺山修司の思いを見事に伝えたのだ。

あまりの全力投球に、腰を痛め、一度だけ代役に役を譲るということもあったが、千秋楽には自分がやりたいと泣いて訴えて、その任を全うした。これは10年経った今も、そして、これからも語り継がれていくであろう、伝説だ。

以後、蜷川幸雄と藤原竜也は、ベストパートナーとして、三島由紀夫の『近代能楽集』、唐十郎の『唐版　滝の白糸』、シェイクスピアの『ハムレット』『ロミオとジュリエット』と、次々に伝説を塗り替えていく。

彼らにとっては、たかが10年。まだまだ先がある、と思っているようだ。さすがのツワモノたち…！　だからこそ彼らはそれを一度封印した。新たな地平に向かうために。蜷川も藤原も、過去は振り返らず、前進あるのみなのだから。

しかし、この伝説を、ヨーロッパとアジアだけでなく、アメリカでも味わいたいと考えたのがワシントンのケネディセンター。熱いラブコールを送り、遂に固い封印が解けた。

ある意味、今回の公演は、蜷川と藤原が、観客に、今一度、あの伝説を蘇らせてくれる祝祭のようなものだ。とはいえ、サービス公演ではなく、おそらく、新たな挑戦を仕掛けてくるだろう。

蜷川と藤原は、本当に停滞することなく走り続けているから。

『身毒丸』復活公演は、ふたりの10年の深化をはかり、これからを占う、指針となるーー！

cast profile

藤原竜也（ふじわら たつや）

1997年「身毒丸」（蜷川幸雄演出）で初舞台を踏む。以後多くの蜷川演出舞台に出演している。また野田秀樹演出「オイル」「ロープ」、ポール・ミラー演出「ライフ・イン・ザ・シアター」などの舞台や、映像でも活躍しており、金子修介監督「デスノート」は大ヒットを記録した。第38回 紀伊國屋演劇賞 個人賞（2004年）、第3回朝日舞台芸術賞 寺山修司賞（2004年）、第11回 読売演劇賞 優秀男優賞・杉村春子賞（2004年）など、数々の賞を受賞している。

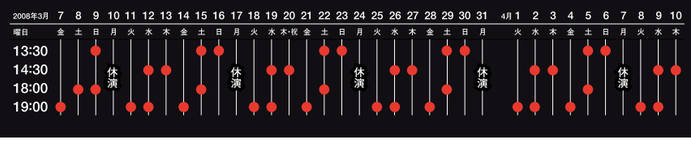
白石加代子（しらいし かよこ）

早稲田小劇場（SCOT）を経て現在に至る。主な舞台出演作品に、「メアリー・スチュアート」「常陸坊海尊」「ミザリー」「リア王」「おやすみ、母さん」「源氏物語」「百物語」など、多数ある。観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞、読売演劇大賞優秀賞（第一回及び、第三回）、スポニチ文化芸術大賞優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞など数々の賞を受賞。2005年紫綬褒章受章。蜷川演出舞台では「夏の夜の夢」「身毒丸」「ペリクリーズ」「コリオレイナス」などに出演。

●●●●● PLAY ●●●●●

『身毒丸（しんとくまる）』復活

【日時】2008年3月7日（金）～4月10日（木）　全40公演
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演出】蜷川幸雄　【作】寺山修司／岸田理生　【出演】藤原竜也　白石加代子 ほか
【チケット（税込）】
一般：S席9,000円／A席7,000円／B席5,000円　メンバーズ：S席8,100円／A席6,300円／B席4,500円
【発売日】一般：11月10日（土）　※メンバーズ優先予約につきましては、10月中旬にプレオーダーシートを別途お送りします。



photo：池上直哉

維新派 nostalgia

〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #1

大阪公演レポート

6月に開幕した『nostalgia』の大阪公演。芸術性と娯楽性を兼ね備えた奇跡のような舞台の登場。

文＝小堀 純（編集者）

維新派の新作『ノスタルジア』（作・演出　松本雄吉）は衝撃的な作品である。ここ何年かの演劇シーンの中でも傑作の一つだろう。

維新派と云えば、前身の日本維新派時代から破天荒な野外劇で知られる。作品ごとに、松本以下劇団員が約1～2ヶ月かけてオリジナルの〈特設劇場〉をつくりあげ、借景をいかし、遠近法を駆使した独自の劇世界をつくってきた。それは、その場所に行かないことにはわからない、まさに「風景を巻きぞえにする」維新派の世界であった。

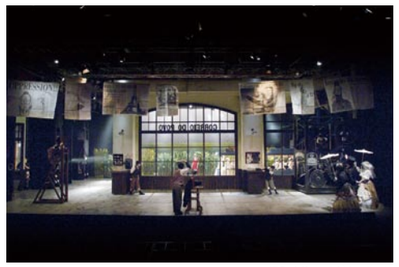
今回の『ノスタルジア』は、そうした野外劇とは違う既成の劇場公演である。維新派は『nocturne』（03）、『ナツノトビラ』（05～06）と劇場公演も行ってきたが、どうしても物足りなさが残った。これまでの経験が生きたのだろう。『ノスタルジア』では、野外劇と室内劇で培った方法論とテクニックを駆使して、“まるで劇場にいることを忘れる”ような空間を作り出す。

物語は、1908年、ブラジル移民となったノイチ少年の半生、激動の40年を描く。ノイチは、ポルトガルからの移民の少女・アンと恋におち、先住民の少年チキノと共に南米縦断の旅に出る。ロードムービーよろしく、時間と場所を自在に変えながらノンストップで展開する。スクリーンの映像と俳優の演技が渾然一体となり、観客はいつしか舞台の、スクリーンの向こうの場所に連れていかれるのだ。ポルトガル語、スペイン語、日本語と複数の言語を俳優たちがリズムにのせて語る「ヂャン☆ヂャンオペラ」のスタイルに詩的な台詞や激しいメッセージが加わり、内橋和久のラテン調音楽が盛り上げる。紅や緑を配した松本雄吉の色彩感覚も素晴らしい。芸術性と娯楽性を兼ね備えた奇跡のような舞台である。

●●●●● PLAY ●●●●●

維新派『nostalgia ノスタルジア』〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #1

【日時】11月2日（金）　開演19:00、3日（土・祝）　開演13:00／18:00
4日（日）　開演13:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【作・演出】松本雄吉　【音楽】内橋和久
【チケット（税込）】好評発売中
前売 一般：S席5,000円／A席4,500円　メンバーズ：S席4,500円／A席4,050円
当日 一般：S席5,500円／A席5,000円　メンバーズ：S席4,950円／A席4,500円



photo：福永 幸治（スタジオエポック）

維新派公式サイト　http://www.ishinha.com/

「nostalgia」特設ページ
http://www.ishinha.com/nostalgia/SP/